

大橋 秀行

〔民主クラブ〕

耕作放棄地の現状は

問 耕作放棄地の面積は。

答 平成18年3月末時点で179ヘクタールである。

問 耕作放棄地に至る背景は。

答 高齢化による労働力不足や生産性が低い農地の受け手がいないなど様々な理由がある。

根本的な要因は農産物価格の低迷から来る収益性の悪化、農家経済の疲弊が耕作放棄地を発生させる最大の要因である。

問 耕作放棄者に対して指導等を行っているのか。



耕作放棄地

答 土地状況と地域における不適切な農地利用など、農地パトロールの際に指導等も併せて行っている。耕作放棄地については本年度、農林水産省より5年後の解消に向け指示があり、農業委員会も解消に努めていく。

問 国に耕作放棄地の解消策を提示しなければならぬと思うが、進捗状況は。

答 現在調査中で、11月末に北海道に報告する。

問 農地の受け手である担い手の育成、新規就農者の援助、法人の立ち上げ支援等、農業者のサポート体制が必要では。

答 沿線の市町村や、ふらの農協など関係機関・団体で「ふらの地域担い手育成総合支援協議会」を組織し、担い手育成に係る農業簿記研修会などの各種研修会、法人セミナーなど法人の育成支援、新規就農者交流会などの支援を行っている。

問 耕作放棄地の予防策で、北海道が取り組んでいる「農業再生委員会」のようなワンストップサービスの事務所が必要では。

答 必要性は認識している、関係機関と協議、検討する。

横山 久仁雄

〔市民連合〕

学童保育センター狭隘化改善は



狭隘の緑町学童保育センター

問 核家族、共働き、一人親家庭が増加傾向にある。それに伴い非行防止、子育て支援の観点からも学童保育の需要は高まっている。保育申請された児童の待機者はいないか。

答 東部児童センター以外は、定員を上回って登録。該当者で待機児童はいない。

どうなる地域再生計画

問 樹海東小の跡地に地域再生と位置つけたオーガニックアカデミーを誘致した。今年の参加農業者数、作物の種類、作付け面積、収穫実績は。

答 試験栽培を行った農家は5戸、作物はメロン、食用馬鈴薯、かぼちゃ、全体で40アール。収穫が終わったメロンは10アールで約2400kg。慣行農法に比較して大きな収量の差異はなかった。馬鈴薯、かぼちゃについても同様と思う。

問 事業の継続と農家が安心して作付けできる、販路の確保、加工技術の開発が大切と思うが。

答 農協出荷、個人販売を行っている。加工は行っていない。